

観客

松江市民劇場会報
KANKYAKU

367
2019.6.20

みんな墓に困ってんなら、
お墓友達になろうって。
略して墓友だよ。



◎松江市民劇場7月例会
劇団俳優座公演

七人の墓友

7.20 [土] 午後6時30分開演

島根県民会館大ホール
松江教育委員会：後援

これからの例会作品

9.17 [火] 俳優座劇場プロデュース 音楽劇 人形の家

11.22 [金] 無名塾 ペてん師 タルチュフ

2020 1.25 [土]・26 [日] 劇団民藝 集金旅行

2020 3.17 [火] 劇団1980 素劇 楢山節考

2020 5.20 [水] 劇団朋友 吾輩はウツである

2020 7月 こまつ座 きらめく星座

※会員手帳に日程をご記入ください。

演劇鑑賞会松江市民劇場

検索



HP



携帯



ブログ

事務局日誌

◎4月の出来事

- 2日(火) 三役&事務局担当会
- 3日(水) 「松井須磨子」運営班臨時作業日
- 4日(木) 事務局短信No.312発信
「須磨子」運営班ニュースNo.3発行
「横濱」運営委員会=夜
- 6日(土) 編集会議=午前
- 10日(水) 松江市文化協合理事会13:30
第12回幹事会=夜
- 11日(木) 会計監査帳票照合
- 12日(金) 「楢山節考」会館利用申込み
「集金旅行」「楢山節考」の宿泊アーバンホテル予約
会計監査会=午前/「墓友」運営委員会=夜
- 13日(土) 事務局短信No.313発信
- 15日(月) 「松井須磨子」運営班会=夜
- 16日(火) 「松井須磨子」運営班会=昼
観客校了/幹事有志で総会準備
- 17日(水) 第54回総会(ゲスト江間直子さん)=夜、終了後
懇親会、「華の舞」にて
- 19日(金) 総会ゲスト江間直子さん見送り
- 22日(月) おしゃべりマチネ=午後
「須磨子」運営班ニュースNo.4発行
サークル通信No.239発行
例会情報No.361発行
- 23日(火) 県民会館「クラッシュアール」公演チラシ入れ
- 24日(水) ブロック幹事会=竹田事務局次長出席
例会情報No.361追加印刷
- 25日(木) 「須磨子」運営委員会=夜
HP)リニューアル修正
- 27日(土) 会費前納/退会届提出期限
- 28日(日) 県民会館「はたしのゲン」チラシ入れ

◎5月の出来事

- 7日(火) 三役&事務局担当会=午後
- 8日(水) 「松井須磨子」運営班会=夜
- 9日(木) 「松井須磨子」運営班会=昼
新年度第1回幹事会=夜
- 10日(金) 「七人の墓友」運営班出発会=昼・夜
事務局短信No.314発信
- 11日(土) ブロック幹事会、竹田事務局次長出席
- 14日(火) 編集会議=午前
- 15日(水) 「墓友」運営班ニュースNo.2発行
- 16日(木) 「須磨子」運営班ニュースNo.6発行
- 18日(土) 消防署から「須磨子」公演の禁止行為許可の承認
例会ニュースNo.361発行
- 21日(火) 「松井須磨子」運営班会=綴り込み=午後
出雲公演
- 22日(水) 例会「松井須磨子」=夜
- 23日(木) 例会「松井須磨子」=昼
会員数クリア達成
小巻さんを囲む運営班との交流会17時、30名参加
小巻さん見送り/米子公演
- 24日(金) 竹田事務局次長、「まいい」と編集作業のため玉島出張/おしゃべりマチネ=午後
- 27日(月) 「七人の墓友」運営班作業日=夜
- 28日(火) 「七人の墓友」運営班作業日=昼、看板、
座席シール完成/如月解散
- 29日(水) 「松井須磨子」運営班お疲れ散会=午後、
9名参加
- 30日(木) 会費前納/退会届提出期限
- 31日(金) 「松井須磨子」運営班ニュースNo.7発行

*表紙の花は、蓮、花言葉は「清らかな心、神聖、救済、休息など」

☆58年前の7月4日、松江放送団の代表をしていた郡山政宏氏が、松江国際文化協会の幹事メンバーに映画演劇観賞会の結成について賛同を求め、むらくも会館(現サンラボ)むらくもで発起人会が開催され、会の発足に向けてスタートし、以来、当初の思いを引き継ぎ今日まで活動を継続してきています。

☆人生の折り返し地点をとっくに過ぎた今、子どもと触れ合える機会を得、毎日へろへろになりながらも、打てば響く(夫と違って)笑、心地よさが病みつきになっていく私。改めて、子どもは社会の宝だと実感する。まだまだ、一緒に成長してゆけそう気がする。(I'm Back)

☆古いから大切に。祖父が大事にしていた銘はない抹茶茶わんと鉄瓶がある。小学の頃からよく飲まされていた。父は興味がなく、祖母が僕が座った。現在一人、祖父が残してくれた「抹茶を楽しむ時間」を大切にしたいと思っている。(秋鹿こぼ)

編集後記

■私たちが会員一人ひとりが会の窓口です。
お誘いの声かけを!

新入会のお誘いは松江で継続的に演劇鑑賞の場を創り出していく会員としての大切な活動です。

■休憩時の女性トイレの使用に当たって

1階左前扉から出入りできる身障者入口を開放します。プロムナードにある新設された2カ所の「女性トイレ」をご利用ください。なお、場内管理のため会員手帳は持参してください。

■事務局の活動をサポートしていただけませんか?

お昼、事務局で事務の手伝い、資料の整理、サークルへの連絡物の発送、例会当日の物品準備片付けなど、会の業務に関わるお手伝いを出来るサポートの方を募っています。気軽に参加してみましょう。ご一報ください。

■訃報

・石富由美子さん

(松江市出身・元音楽座ミュージカル女優)享年61歳
2月23日、病気のため逝去。1993年「とってもゴースト」例会では主役を演じ、以降数多くのミュージカルに出演。

ご冥福をお祈りいたします。

まいぱく

「妻のトリセツ」(講談社刊)
¥864 黒川伊予保子編著



- ▶女性脳は、30年前のできとも、昨日のこのようにフラッシュバック。
- ▶溜飲が下がるとは、このことぞ!
- ▶絶対に旦那に読ませたいと思いましたが、もう遅いけど、ね、イヤまだ間に合う?(I'm Back)



開演前に、スマホ・携帯の電源は切ってください。

あなたの最期に寄りそうのは誰？

◆松江市民劇場7月例会 ◆劇団俳優座公演
◆作/鈴木 聡(ラッパ屋) ◆演出/佐藤 徹也(オフィスクレッシェンド)

七人の墓友



笑って、笑って、涙して、大人が楽しめる社会派コメディー
おひとり様も、ご夫婦様も共感できるすてきなフィナーレ!!

「終活」という言葉も生まれ、家族ではない者同士で築く「墓友」
他人同士が同じ墓に入る新たなスタイルに注目
家族のあり方、結婚・離婚・未婚・不倫、老後・死後への不安
誰にもあるテーマを、明るくユーモラスに描きます

7月20日(土) 午後6時30分開演 県民会館大ホール

キャスト

吉野 仁美 (吉野家の長女)	清水 直子さん
邦子 (仁美の母)	青山 眉子さん
義男 (仁美の父)	小笠原 良知さん
義和 (仁美の兄)	塩山 誠司さん
美枝子 (義和の妻)	安藤 みどりさん
義明 (仁美の弟)	斉藤 淳さん
誠二 (義明の友人)	遠藤 剛さん
照之 (義明の恋人)	田中 美央さん
遥香 (仁美の友人)	佐藤 あかりさん
剛 (遥香の恋人)	関口 晴雄さん
京本 聖子 (剛の恋人)	増田 あかねさん
中島 正明 (仁美の不倫相手)	河内 浩さん
三村 佐和子 (墓友の一人)	片山 万由美さん
木島 陽子 (墓友の一人)	天野 真由美さん
多田 由利江 (墓友の一人)	松本 潤子さん
松岡 祥文 (墓友の一人)	可知 靖之さん
岡添 弘 (墓友の一人)	伊東 達広さん
竹内 浩介 (陽安寺の住職)	蔵本 康文さん

あらすじ
雑誌編集者の仁美が呼び出されたのは、スカイツリーの展望台。
母邦子は、飼犬の桃太郎の死をとっかかりに、自らの人生についてしみじみと語りだし、そんな彼女の心境の変化に、戸惑いを隠せない仁美だった。
毎夏恒例、父・義男が楽しみにしているバーベキューに家族や友人の集う実家。
理想的な家庭を築く兄の義和、その妻の美枝子に対し、弟はNYでアートに身を投じていた。ひよんな諍いから母の邦子は、夫・義明への積年の不満を爆発させ「あなたと同じお墓には入りたくない」と口走ってしまっただった。
古いタイプの義男にとって、それはまったく解せない話だった。
さらに海外在住の仁美の弟・義明が驚くべき告白をし、一家は大騒動に。
数日後、仁美は地元のアートフェスティバルで偶然、邦子のやがて「墓友」となる個性豊かな老人たちと出会い、さまざまな事情や思いにふれる。

家族を超える「墓友」

井上治代さん

「墓友の言葉を作った元東洋大学教授で社会学博士
認定NPO法人エンディングセンター理事長」

ていく。「常識を取っ払えば、僕らは誰とお墓に入ろうと自由なんだ」「自由を使うためには強くななくちゃいけない」。お墓を買おうと思ったのは「一人で生きていくって決めたからよ」。連続する家族の中で守られてきた老後や死後。それが見込まれない個人化した社会にあって人々は、自らの意思で選び取り「これからをしつかり生きていく」ために家族を超える。
(前公演パンフレットより抜粋)

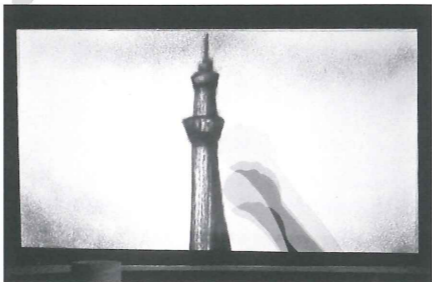
ゲイや不倫カップル、未婚、離婚と登場人物もさまざま。定年離婚もあれば、夫と別墓を決定する妻の「死後離婚」も描かれている。男性優位の家意識の中では、妻だけがその不条理に気づき、夫はといえば、とつとつに幻と化した「家」の責任を背負ったまま老いて妻に取り残される。また妻方の親と結びつく息子を登場させるなど、男系で継がれてきた「家」の崩壊と、新たな人間関係が描き出され、まさに現代社会の縮図がそこにある。
しかしこの芝居の面白いところは、多様な生き方をした人々を取り揃えたところではない。「墓に誰と入るか」、墓を通して現代社会を浮き彫りにしている点である。
実はこの視点は、社会学者である私の長年の研究方法。人々の多様化した生き方は、墓から見れば跡継ぎのいない者の増加を意味する。墓は代々家族で入るもの、家族によって継承されるもの、という伝統を超えていくダイナミズムを捉え、現代人の思いが浮き彫りになっ



▲舞台写真

舞台装置 サンドアートもお楽しみに

船本恵太さん(サンドアーティスト)



※サンドアート…道具を使わずに手でガラスの上に次々と砂絵を描く。

私の父と母は、父の姉夫婦とお隣同士の墓を買いました。そう、墓友です。買ってすぐに父は墓に入り、その伯父もまた墓の中です。墓はいい。今は亡き父や伯父に語りかけられる場所を用意してくれていて、ありがたいです。たとえ中々墓参りに行けずとも、墓があるというだけで安心感がある。こう言っていると、なんだか墓のセールスマンみたいですが、そう思い起こさせてもらえるのが、この舞台です。墓は、涙のためにあるんじゃない。笑いのためにあるのだと。—中略—

芝居の舞台装置として、サンドアートを作るのは始めてのことです。日本初どころか、もしかしたら世界初ではないでしょうか？この非常に斬新な先駆的な試みを、新進気鋭の劇団ではなく、70年の歴史を誇る俳優座が行うということに、重みを感じさせられます。心から光栄に思います。
果たして皆様の目にどのように映るのか？砂という存在が何を語りかけてくるのか？私自身も興味しんしんです。

私は、砂を撒くように、遺灰も海に撒いて欲しいと願うタイプの人間です。

スカイツリーの頂上も砂、桜の原木も砂、天も地も、全ては儚く消えゆき移り変わる砂絵の世界の中で、共に、墓友を探す旅に出かけましょう。

(前公演パンフレットより抜粋)

●7月例会の輪番による「空席待ち」は、「さそり座」のサークルの皆さんです。



妻であり母である前に、一人の人間として生きたい—

—人間の本性とは、真実の愛とは何か。世界を驚かせた名作戯曲を音楽劇で—

<劇団に寄せられた感想より>

◎すばらしい音楽劇に大満足でした。特に「かわいい小鳥ちゃん」にぴったりの土居裕子さんの歌唱力は抜群でしたし、舞台装置もステキでした。

結婚前に読んだ「人形の家」、そしてまもなく結婚50年の現在観た『人形の家』。ノーラに対する考え方が少し違って見えます。「愛の形」や「プライド」について、自分の人生を振り返りながら考えさせられました。(後略)

◎女性が男性を嫌いになる瞬間というものを見たという感じ。はじめ、「人形の家」とは、夫が捨てられるとはいかなることかと思ったが、予想以上の衝撃でした。とはいえ、ノーラはかわいかった♪ だからこそ、よけいに衝撃の最後であり、取り戻せないものがあるのだと思われ知らされました。



◆劇団より
1879年に発表された「人形の家」は新しい女性像を世に示し、近代劇の出発点となった作品として知られていますが、今回は男と女、夫と妻の愛の物語を際立たせました。
華やかであった家庭が、ある男の来訪と手紙によって揺るがされる…。
サスペンスとしての要素や心情を、クリムトの絵を描いたパネルを回転させ表現する秀麗な舞台セット。
俳優陣の織りなすアンサンブルと美しい楽曲・歌声は、現代の「人形の家」を創造することになりました。音楽劇「わが町」に次いで、皆さまにお目にかかります。ご期待下さい。

■イプセンと「人形の家」

ヘンリック(ヘンリク)・イプセン
(Henrik Johan Ibsen, 1828年-1906年)
ノルウェーの劇作家。近代演劇の父と言われ、シェイクスピア以後、世界でもっとも盛んに上演されている劇作家とも言われる。代表作には、『ブラン』『パール・ギュント』(グリーグが後に劇音楽を作曲する)『人形の家』『野鴨』『ヘッダ・ガーブラー』『民衆の敵』など。

『人形の家』は、1879年に書かれた戯曲。全3幕。同年、デンマーク王立劇場で上演された。弁護士ヘルメル(ノラ)の妻ノラ(ノーラ)を主人公とし、新たな時代の女性の姿を世に示した。伝統的な家族道徳に反するものと非難されるが、各国で上演され、女性の社会進出と自立に多大な影響を与えた。この作品の成功がイプセンを一躍世界的な劇作家とした。

ピンクのBUS/夏みかん2/フリージャー/夏みかん3/アップルパイ/☆星☆むすめ
あんずのジャム/こころ/はまなす/チェリーきすき/こころ2/ピンクのBUSII/おろちの里
梅花/めだか1/あひるのエプロン/めだか2/ロック/ドゥリーム/ペンギンさんバタバタ
I WISH/ロック2/七・五・三/ふじしろ/タカノ/ワタナベ/Yプロ

◎9月例会「音楽劇 人形の家」運営担当サークルのみなさんです。

◆松江市民劇場9月例会
◆俳優座劇場プロデュース公演

近代劇の出発点となった「人形の家」。 音楽劇として生まれ変わる

俳優座劇場プロデュース No.100

音楽劇 人形の家

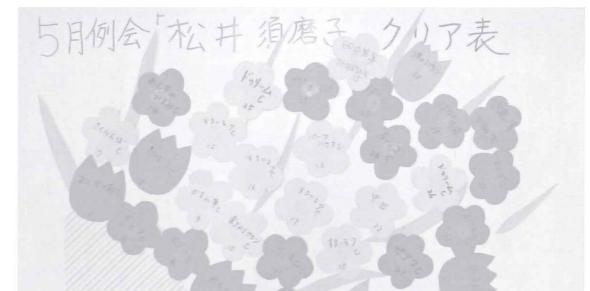
作=ヘンリック・イプセン
翻訳=原千代海
演出=西川信廣
作曲・音楽=上田 亨
作詞=宮原芽映

土居裕子さん(ノーラ)

あらすじ
幼い子供たちに慕われ、夫には可憐な妻として可愛がられるノーラ。
夫ヘルメルは弁護士から間もなく銀行の頭取へ就任することが決まっている。
ある日、クロクスタと名乗る男が訪ねてくる。
彼は銀行に勤めているが評判が良くなく、ヘルメルは就任とともに彼を解雇しようとしていた。それをやめさせる為、ノーラからヘルメルに頼むようやって来たのだ。
実はクロクスタはノーラの過去の秘密を握っていた。
ヘルメルが重病になり多額の療養費が必要になった時、ノーラは借用書の保証人のサインを偽造してヘルメルに内緒で借金をしていた。
クロクスタはその借金の相手であり、解雇されるならこの事実を暴露すると脅す。
ノーラは愛する家族の生活が壊れてしまわぬよう、必死にヘルメルに懇願するのだが…

座席シール渡し開始/8月20日(火)

ホーランエンヤ月の例会



▲クリア表

●良かったと報われた

若い時から小巻さんには色々ご縁があり、今年は5月例会の運営班に志願しました。そして今回、初めて昼の集まりに多く参加し、改めて市民劇場での女性のパワーを痛感させられた例会でした。

3月14日の出発会から約2ヶ月間の準備期間でしたが、途中、改元や過去に無い長さのゴールデンウィークもあり、あつという間の2ヶ月間でした。当日運営では、二日間仕事を休み、一日目の事務局からの荷物運び・搬入に始まり、二日目の搬出・交流会まで関わり、少し疲れたというのが正直な感想です。

しかし、開演前のロビー会で、劇団制作の方が劇団の市民劇場への想いをお話された時は、準備をして良かったと報われた思いで感動しました。ただ、見送りに行けなかったのは心残りです。

(まことむしC 海賀 真)

●久々に運営班に参加して

市民劇場に入会して15年程になります。当初は例会当日のみ勤務先から直行して受付係やもぎり係、販売物係等々を担当し、参加していましたが、8年前から親の介護などで参加が難しくなり、暫く遠ざかっていました。やっと最近少し余裕ができ、久々に参加しました。

例会を迎える準備として、綿密な話し合いと役割内容の確認等、こと細かく打合せを行いました。メンバーの皆さんの一生懸命さや例会への思い入れ等、熱意がすごいなあ〜と実感しました。

例会当日は、パン・珈琲係とカーテンコールを担当しました。係りをこなしている時、昔と比べて若い人が少なくなつたと感じました。

(すずらんC 松尾 忍)

●マーク楽屋担当

私が運営班として担当するのは、二日目の昼公演前、劇団の方々に抹茶を楽しんで頂く係である。拙い私で出来るかどうかと不安を抱えながら、それでも一方でワクワクして楽屋にお邪魔した。

教えて頂きながらも準備を進めていると、「おはようございます」(えっ！この声は、栗原小巻さん?)ここは栗原さんが舞台に立つための場所なのだから当たり前だ。(ムム、緊張で声が出ない)



▲クリアで劇団に目録をお渡ししました



▲見送り



▲ロビー会(昼)

●感激・感動・感謝

「アンナ・カレーニナ」公演から入会し、その時にキャスト、スタッフの皆さまへパンを差し入れて、その夜に栗原小巻さんご本人からお礼のお電話をいただきました。謙虚で思いやりのあるお人柄に触れ、ご縁を大切にしようと思つて今回の例会を迎えました。

・「松井須磨子」カーテンコールで大変優へ「せじりのパン」を。

・芝居後の交流カフェで、ご本人目前で緊張した中での楽しい会話。

・もちろん、素晴らしい舞台、もう感激、感動で、感謝の気持ちでいっぱいです!

運営班事務局の方々のやさしい心づかいをととても嬉しく思い、少しの間でございましたが、素敵な時間を過ごすことができました。いっばいお世話になってる分、これからは年齢が40・50代の会員が増えるよう努力していきたいと思つています。

(セジリC 瀬尻正人)

◎「松井須磨子」組織動態報告

- 会員数 914名 (前回は+1名) 新入会35名 退会34名
- 3名以上のサークル数 149c (前回は+1c)
 - ☆新規=1c 根分け=1c 復活=3c
 - ★解散=2c 減=2c
- 例会参加 760名 (参加率83.2%)
- サークルの異動 (登録173c)
 - 登録=4c 抹消=6c

- ◇新サークル
 - ・あんずの樹サークル (5名) 代表 松尾久美子さん
 - ・あんずの花Cからの根分け
 - ・セジリサークル (5名) 代表 瀬尻正人さん
 - ・広瀬町の皆さんとともに新サークルの誕生
- ※運営班から4サークル (3名以上) の誕生でした。
- ☆特記事項
 - ・23日は大ホールで県下の高校演劇部の講習会があり、参加の130人あまりの皆さんが開演前の「松井須磨子」の舞台を見学しました。舞台上がり、セットのドアにも触れたりして、舞台監督さんから説明を受けていました。

5月例会「松井須磨子」 交流会報告

小巻さんたちを迎え、なごやかで楽しい時間

5月23日の昼例会終演後、片原町の「パティスリー・キューイル」で交流会を行いました。栗原小巻さん、ピアノの城所(きど)潔さん、制作の横田(よこた)さんを迎えて、会員は17名の参加でした。

司会は、あんずCの出川(いづか)さん。まずは運営班代表として、ラルゴCの澤(さわ)さんの歓迎の挨拶。次に、各々のコピー、紅茶を高く上げて乾杯。小巻さんから「今日、開演前にクリア達成の報告を聞いて、とてもうれしかった。一緒に芝居を作っている実感があつた。また、抱月先生の故郷で、皆様からあたたかい拍手をいただき、とても感謝しています。須磨子(すまこ)さんを受け入れてくださつてありがとうございます」と、お礼の言葉をいただきました。

ここで、司会者から特別に紹介があつたのは、小巻さんの隣に座るセジリCの景山(かげやま)さん。93歳のチャーミングな女性です。この日、カーテンコールの係をされました。みんなで拍手。小巻さんからもハグしていただき、ニコニコです。次に、会員からの感想が続き、小巻さんは一つひとつ丁寧に答えてくださいました。

席の関係で、ピアノを弾いている姿が見えなくて残念でした

「それが、狙いなんです」

即、ユーモアで返された城所(きど)さん。とても気さくで楽しい方でした。

小巻さんからの質問もありました。

「抱月先生のお墓はどこにありますか? お参りしなければと思つてはいるのですが」

浜田市(はまた)の金城町(きんじやう)にあります。ここから車で3時間ほどです。

「まあ、そうですね。近くまで来ていますのにねえ」

小巻さんは残念そうな様子でした。

楽しい時間はあつたという間に過ぎ、最後に全員で写真を撮つてお開きに。小巻さんは、私たち一人ひとり別れの握手を交わし、笑顔で手を振りながら会場を後にされました。外見の美しさだけでなく、内面からにじみ出る品性の美を感じた女優さんでした。

(宙C 三島葉子)

衣装が素敵でした

「自分でデザインしています。今回で5作目ですね。布地も装飾品も自分で選んで縫製の方をお願いしています」

舞台上での素早い衣装替えに驚きました

「着替えの空間は、ひとり分しかありません。すべて自分でしています」

セリフの部分の低い声、歌う場面の高い声、どちらの声も素晴らしいです

「役柄に応じて声を使い分けています。ピアノの音に合わせて」

と、隣席の城所(きど)さんにニコニコ。その城所さんにはこんな感想がありました。



▲パティスリー・キューイルにて

◆5月例会「松井須磨子」運営班のまとめ 例会2日目にクリアできた喜び

運営班会は3月14日の出発会から活動がスタートしました。5月例会は栗原小巻さんのひとり芝居で時間が90分、中ホール2回公演で新入会のお誘いがしやすいのではという思いで、「5月の10連休前にはクリア」を目標に掲げました。又楽屋のメニューを見直し、1日目はしじり汁とご飯と漬物程度、2日目はお抹茶と決定しました。

3月28日昼の班会に「松井須磨子の魅力に迫る」と題して宙サークルの三島葉子(みやま)さんに講師をお願いし勉強会を開催しました。波乱万丈の生涯と須磨子(すまこ)が演じた女優を栗原小巻さんがどのように演じられるのか期待が高まりました。

4月3日に臨時の班会を開き、看板が完成すると共に34名の退会が確定し、運営班31サークルが各1名の新入会、新サークル3Cを最低の目標としました。

連休明けの班会には2日間で31名の参加があり、当日の係も決定しました。

サークルクリアは新規・根分け・復活で早めにクリア達成しましたが、新入会クリアにはなかなか繋がりにませんでした。5月18日綴じ込みの日にはホーランエンヤ渡御祭(わたごまつり)になりましたが、たくさんの方が参加があり準備は順調に進みました。しかし、中日祭があつた22日夜の例会では残念ながらクリア報告が出来ませんでした。これでは笑顔で気持ちよく交流会に参加出来ないと、夜の例会後再び呼びかけて23日の昼例会でなんとかクリアの報告することが出来ました。今回は運営班外からたくさんの方の参加があり、この応援に応えるためにもクリアでき本当に良かったです。

交流会は小巻(こまき)さん、ピアノの城所(きど)さん、制作の横田(よこた)さんを含んで17名の参加があり、あつという間の1時間でした。2日間の例会でしたが、皆の協力によって、運営担当サークルのみで当日の運営が出来ました。ホーランエンヤと重なつた記憶に残る例会になりました。

(リーヌC 長岡明美)

運営班参加の状況

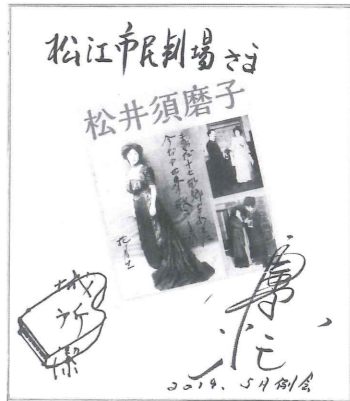
運営班会	参加C	参加者数
第1回出発会	14C	14人
作業・第2回	13C	18人
臨時班会	13C	14人
第3回	18C	24人
第4回	20C	28人
綴込み	13C	15人
例会日	31C	95人
第5回おつかれ散会	7C	7人
運営班会参加	24C	43人
運営参加総数	31C	97人
担当からの新入会	14C	20人
担当からの新サークル	4C	
担当サークル	31C	149人

※5月例会運営班で写真をご希望の方は事務局でご覧になってください。すぐにその場でプリントいたします。

○楽屋メニュー 1日目(しじり汁) / 持ち寄り=枝豆とコーン炊き込みご飯、野菜(7種)サラダ、春雨・きゅうりサラダマヨネーズ、玉子オードブル、たくあん、パイナップルとりんご(ひばりC:稲田) / ツタンカーン豆のおみぎり、奈良漬(花だよりC:竹下) / 大学いも、マカロニの和え物(テレノC:錦織) / 2日目(お抹茶)

観客席から

5月例会「松井須磨子」(エイコーン公演)



び、消えていった二人。美しいピアノの音色と演じた栗原小巻さんの美しい立ち姿に魅せられたお芝居でした。(福田 昇 70代)

●松井須磨子の演じた女性全てをしつかりと演じきつた小巻さんにバンザイ!!です。(福島伸子 80代)

●小巻さん。とても素晴らしかったです!円熟さと清らかさ。感動しました。(60代)

●美しい姿、とてもよかったです。(60代)

●上品でした。おそらく年上になられたでしょうが、まだまだ道を照らしてくださることを切に願います。(60代)

●とても楽しく観劇できました。セリフの声と歌の音が違っていて、そのギャップにも驚きました。とても素敵な歌声で感動しました。ピアノ演奏も舞台を引き立て、素敵でした。(V.Y 70代)

●時代が女優、松井須磨子を生んだのだらうか? 島村抱月が松井須磨子を女優に仕上げたのだらうか? 芸術への愛情が二人にとりつき、ほんの一瞬の輝きを与えて消えていったのだらうか。女性が目覚め、社会へ飛び出して行った時代にスポットライト浴び

は違っていました。マイク無しだったのでしようか。(40代)

●須磨子の人生と劇中劇との交錯は、演劇通ではない者にとつてはわかりにくかったようです。全般的に暗い照明だったせいか、舟を漕ぐ姿もチラホラ。(亀井彰子 楽ダのエブロンC 60代)

●松井須磨子vs栗原小巻、開演前にどんな対決を見せてもらえるのだろうかと思待ちしていました。情念の人、須磨子のイメージと華族のイメージの小巻さんというのが観劇前の私のスタートです。終演後は須磨子の情念を執念と呼べる姿に変えた小巻さんが居ました。与謝野晶子から始まったこの舞台、姿形を異なえど底に流れる一途さを感じました。(岡田文子 60代)

●張りのある声の幕開きに、驚きと共に心が持って行かれ、栗原小巻さんに吸い込まれていきそうなお芝居が居ました。劇中の松井須磨子については、それほど詳しいわけでもありませんが、須磨子の女優として生き抜いた姿を、確かに感じることが出来ました。もうひとつ、これも芝居のはなしです。ある作家は、須磨子と抱月の関係についてこんなエピソードを戯曲に書いています。こだけの話との前置きがあってから。「カチューシャの唄」「ゴンドラの唄」「さすらいの唄」などは、みなさんからの唄も歌いやすいとおほめをいただいております。これは、抱月先生の依頼を受けて、いずれも松井さんのために作曲したので



「松井須磨子」例会作品のまとめ

舞台上に照明が当たると、「愛の夢」の調べが流れ、栗原小巻さんの姿が浮かび上がります。与謝野晶子の「君死にたまふことなかれ」まずこの詩の朗唱から舞台は始まります。冒頭に反戦詩として有名なこの詩を語ることは女優松井須磨子をどう捉えてこの作品を作ったか、その方向を示しているとも言えるでしょう。明治から大正にかけて、日本の社会の中で、演劇と自らの人生に挑み模索し続けた女優ということでしょうか。

須磨子の波乱に富んだ人生を、小巻さんは全情景の中に語り演じます。不幸な結婚、文芸協会での女優としての開花、彼女の名を世に知らしめた「人形の家」のノラ、抱月との出会い、許されぬ恋の葛藤、抱月との新しい人生と愛、芸術座の旗揚げ、「復活」の成功、芸術性と大衆性の追求、そして突然の別れと死。激しく短い人生を生きた須磨子を、小巻さんは時にしつとりと時に激しく、喜びと哀しみを込めて演じていきます。年齢を感じさせないようなやかで激しい動きに観客は引き込まれていったことでしょうか。小巻さんのどちらかという低い声で、須磨子の思い、その苦しみや怒りや情念を、舞台上の楽屋、彼女の居室などを縦横無尽に動き衣装も替えながら表現していくその演技も圧巻でした。

また、「カチューシャの唄」「ゴンドラの唄」「さすらいの唄」等々須磨子が日本中に大ヒットさせた劇中歌も、城所潔さんのピアノ伴奏でじっくり聴くことができました。独白の声と違って、1オクターブも2オクターブも高い美しい歌声に、須磨子の面影を重ねつつ聴き惚れた人も多かったのではないのでしょうか。

34歳の若さで自ら生命を絶つた松井須磨子。島村抱月との恋が、彼女の女優としての原点であり、到達点でもあったのです。そしてこの作品は、数多の舞台で主役を演じた須磨子自身の人生と、作品の役柄の人生とを重ね合わせながらつづられた舞台にもあり、また、小巻さんは須磨子になり、ノラにもなり、カチューシャになり、再び須磨子になり、そして何役もの人物を演じ分けながら、同時に須磨子のおふれる思いを語り尽くしたと言える作品でした。

(文責 幹事会例会企画担当)

●培った? 芸能記事からの情報で頭浮かんた群像がある。先日亡くなった京マチ子さんと「松井須磨子」、いや山田五十鈴さんかな、太地喜和子さんかな。生涯を演劇に賭けた生き様の報道が、私にそんなイメージを湧かせるのだ。須磨子の節目を声色を変え、身体を固くし、ある時は弾けて演じる小巻さんは、その群像にはいない。私が松井須磨子という女優に貪欲なまでに執着する姿を重ねているからだろうか!? 島村抱月との出会いと永遠の別離に童女のような歓喜と唇を真一文字に結んだ「女」の顔! 須磨子の「情念」を、執着に変えた一瞬の風を感じ

事務局に寄せられた感想

●栗原小巻さんのスタイルの良さと歌の上手さ、動きの軽やかさには驚きました。声の低さ、太さも、イメージと

切り込みアンケート結果

とても良かった	119人
良かった	19人
ふつう	145人
やや期待はずれ	1人
つまらなかった	0人
わからなかった	1人
投票総数	189人

日々の思いを綴る



女性の立場

最近、現米最高判事ルイス・ペーダー・ギンスバークさんの映画が出来ている事を知った。彼女は85歳の今もアメリカの現役判事である。人気も高く応援する人々がアメリカ中に沢山いる。最近はずっと出ていて、大いに売れているようだ。彼女のためなら自分の身体の一部を上げて良いと言う人までする。良いことも悪いこともはっきり言う判事の彼女。もちろん彼女自身の強さと賢さはあるけれど、夫や子供を始め応援者・理解者が沢山いる。そのことと自身が、彼女をどれほど勇気づけているか計り知れない。今の彼女にとって、これほど大きな精神的栄養はないだろうと思う。

先日、明治・大正を女優として生きた松井須磨子の半生を、栗原小巻さんの舞台で見せて頂き、松井須磨子について興味を持った。今では想像できないほど女性が権利を持たなかった時代、誰より飛び出た釘の彼女は、周りに悪く言われることはあっても、理解する人は少なかつたのではないだろうか。現在のギンスバークさんの真逆である。

自分の生き方に賛同や理解を得られない立場は生きるモチベーションさえ保つことは難しそうだ。

私たちは苦勞を重ねた須磨子のような時代の女性たちが歩いて少ずつ固めてくれた道で生きている。誰もがギンスバークさんのように自由になれなくても、須磨子の時代より女性は自由になってきている。世界中がそうではないけれど、それでも過去の女性の苦勞が現代を生きる女性たちの生き方を大きく良い方向につなげていることに間違いはないと思っている。(月明かり)

松江市民劇場総会ゲスト

「無名塾と私の女優人生」 江間直子さん(無名塾俳優)講演より

2014年の『ロミオとジュリエット』に序詞役で出演、今年11月の『タルチュフ』ではヒロインの小間使いでタルチュフの悪事を暴いていくドリーヌ役で出演されます。

小劇場公演にあこがれ、1997年に21期生として入塾し20年以上。3年ほどして外で仕事をして来いと言われたがなかなか仕事がなく、苦戦するもいろんな人とのつながりができ、再び無名塾のけいこ場公演に小さい役で出演、演出もするように。

きっかけは『ロミオとジュリエット』で序詞役をしたとき、「花の都のヴェローナの・・・」の出だしを演出の高瀬久男さん(故人)に役者を辞めたいほどのダメ出しをされ、高瀬さんの言うことが分からなかったので、演出を試してみれば分かるかと思ひ、演出を試してみたらいろいろやってみて楽しくなったそうです。演出は自分の作りたい世界観が実現できる場所がいい。これが仲代さんにばれて、「けいこ場公演の『かもめ』をおまえが演出しろ」と言われ、今は役者をしたり演出したり。

英語が得意な江間さんは年に1回は海外に出かけて1回に10数本の芝居を観る仲代さんに同行し、チケットの手配などをお手伝いされるそう。仲代さんの演劇に対する姿勢は、満足することなく進んでいくことと感じているそうです。

江間さん曰く、悪役をやらせたら仲代さんの右に出る者はいない。ですから、「俺が旅公演に行けるのもこれが最後かもしれないから、とタルチュフが言っていますので、ぜひ、観てください。」とのことでした。(編集担当:チューリップ)



▶江間さん(中央)を囲んで



このページの掲載に当たっては、読みやすくするため寄せられた文の主旨を損なわないよう編集しています。また、演劇の魅力、観劇の楽しさ、喜びを紹介する頁です。表現上そくわない場合は掲載していません。ご了解ください。



観劇メモに、セリフが聞こえないとの記入が寄せられます。これは大ホールの構造上避けられない課題です。会員を増やし、ホール2回公演を実現することで解決しますが、現状の会員数では難しいです。なお、2階席にエレベーターで移動されると、比較的セリフが聞こえやすいかと思ひます。

1,000名会員を目標に、仲間を増やし、サークルをつくり、観劇の輪を広げたい

第54回総会は4月18日(木)18時30分から松江テルサ大会議室において開催されました。議長に福田昇さん(煙のエプロン)を選出し、野村みさ子会長の挨拶のあと議事に入りました。総会資料に基づき2018年度の活動、会計収支報告、会計監査報告が行われ承認されました。

続いて、2019年度に向けての方針および活動計画、会計予算、2020年度作品のラインナップの提案等を満場一致で決議し、会長に野村みさ子さん(あんず3C)はじめ、新年度の役員を選出しました。引き続き、ゲストの無名塾の俳優、江間直子さんが自らの女優人生、11月例会「へん師 タルチュフ」、無名塾、仲代達矢さんのこと等をお話しされました。総会の出席は45サークル、55名(定数147名/委任状89名)でした。

2019年度役員

- 会長 野村みさ子(あんず3)
 - 副会長 吉儀万里子(からす)
 - 事務局長 福田昇(煙のエプロン)
 - 事務次長 石橋洋男
 - 幹事サークル 竹田洋子
 - 530/リーヌ/あんず/☆星☆むすめ/ペンパタ/生協/ドゥリム/ロック/ビス/コッテイ/堀亀くん2/森のエプロン/オフコース/ラルゴ/楽ダのエプロン
 - 会計監査 延岡敏子(アダルト)
 - 補足 上野幸美(興福)
- 会則には「事務局次長」の役職はありませんので、総会決議をもって、事務局員の竹田洋子さんを「事務局次長」に選出。幹事会の役員として会議に参加できる手続きと

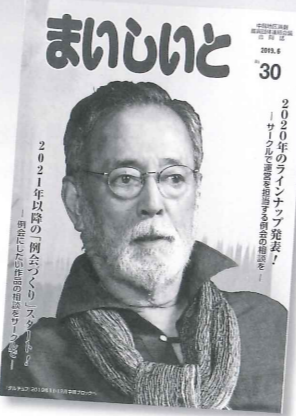
総会で決議された全会員、全サークルで目指す2019年度にむけての活動目標(抜粋)

松江で継続して観劇を楽しむために「会員のお誘い」を勧め、中ホール会場例会の実現に向けて、仲間を増やしましょう！

私たちが松江に居ながらにして生の舞台を仲間とともに楽しみたいと、会を作り仲間を誘い、会費を持ち寄っています。そして57年以上もこの活動を続けてきましたが、いま私たちの鑑賞会は大きな転機を迎えています。

松江で継続した観劇の場をつくり、高齢の方たちが観劇しやすいように、中ホール会場で昼夜2回例会を一回でも多く実現することを目指し、創造団体と共によりよい舞台をつくるための活動に共感する仲間を一人でも多く増やしていくことが必要です。

- ・総会数1,000名を実現すること
- ・会員数1,000名以上の新サークルづくりを基本に据え、会員数サークル数の「前例会クリア」の継続を追求し「内部の充実と外への広がり」をもった活動を展開し、サークル、会員を増やしていきます。
- ・サークルで目指すこと



松江で定期的な演劇鑑賞の開催を目的に発足して、今年58年目を迎えます。今まで継続できてきたのは、話し合いを基本とした会員3名以上のサークルが会を支えてきたからです。

例会づくりのスタート

2021年3月以降の例会作品を決めるためのサークル討議は「まいしいと」30号をあなたが受け取ったときからスタートします。

全会員が参加できる例会づくりをめざしています。

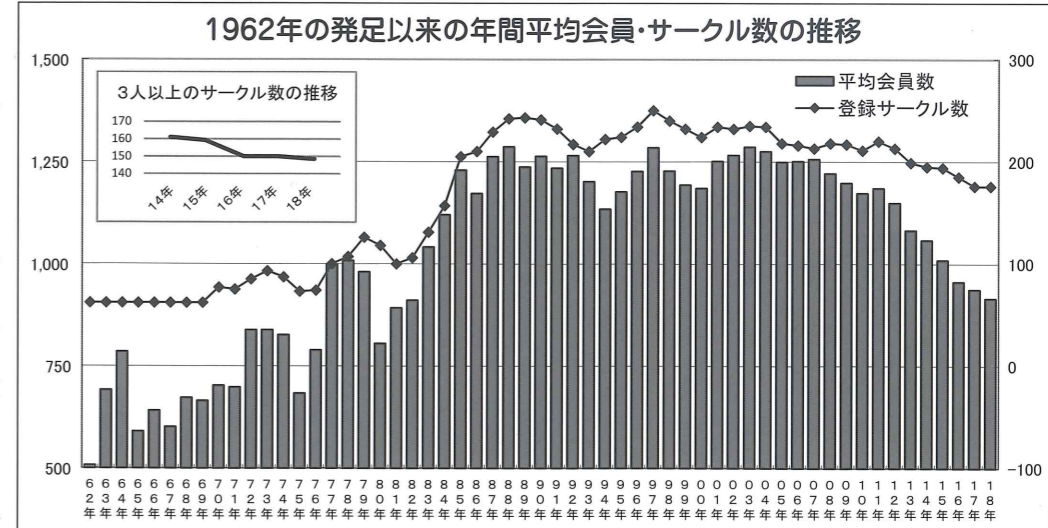
- ア、例会作品は自分たちの観たい作品をサークルでまとめ、これをサークルの要望として持ち寄り、話し合いの中で実現していきます。
- イ、まず観たい作品を意思表示することから始まります。
- エ、「まいしいと30号」を読んでサークル代表を中心に相談しサークルで6本の観たい作品を決めます。
- ロ、こうして各サークルから寄せられた作品を集約し、松江のサークルの希望作品として連絡会にブロックに報告します。
- ハ、幹事会は、ブロック各地の鑑賞会からの希望作品を整理した「例会ラインナップ案」を検討します。
- ニ、秋のサークル代表者会で幹事会からの「例会ラインナップ案」について討議を深めます。
- ホ、サークル代表者会の討議結果をブロック会議に再び持ち寄り、劇団および各地鑑賞会間の調整を経て2021年3月以降の「例会ラインナップ作品」が決まります。

例会づくりの日程(予定)

- 6月26日～29日 サークルに例会づくり説明会。全会員へ「まいしいと」配付、各サークルでの相談・話し合いの開始
- 7月31日 サークルから集約表の提出期限
- 8月7日 幹事会でサークルからの集約結果を基にした「松江のラインナップ案」作成
- 9月～10月 ブロック会議で「ラインナップ案」の討議、決定。
- 10月26日 ブロック総会で例会作品の決定。

幹事会としてサークルで注目し話題にしたい作品

「雪やこんこん」井上ひさし昭和庶民伝三部作「さらめく星座」「闇に咲く花」は再演を重ねているが、この作品は松江では未上演。



- ① 運営担当サークルの時は誘い合せて例会準備に参加し、他のサークルの方たちとの出会いやふれあいを大切にする。
- ② 今のサークルから独立し、3人以上の新しいサークルをつくる根拠を実現する。

- 音楽劇 消えた海賊 【東京演劇アンサンブル】
- キネマの神様 【青年劇場】
- 雪やこんこん 【こまつ座】
- 泰山木の木の下で 【劇団民藝】
- 農 【俳優座劇場プロデュース】
- アルジャーノンに花束を 【劇団昴】
- 怪談・牡丹燈籠 【文学座】
- おとうふコーヒー 【劇団銅鑼】
- もやしの唄 【テアトル・エコー】
- 旅立つ家族 【劇団文化座】
- しあわせの雨傘 【NLTプロデュース】
- ドレッサー 【加藤健一事務所】
- マクベス 【劇団東演】

9月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	
September	休	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	

8月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
August	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土